

# 高田世界館 —映画を通じた地域再生—

特定非営利活動法人 街なか映画館再生委員会 [新潟県上越市]

## テーマ

## 【感動の宅配便】 世界館キネマデリバリーサービス構築

設立年月 2008年10月 (2009年6月法人化)

メンバー数 個人会員 25人／賛助会員5団体

代表者名 岸田 國昭

## 連絡先

〒944-0109

新潟県上越市板倉区戸狩216番地  
街なか映画館再生委員会

岸田 國昭

tel 090-2562-4475 (岸田)

fax 025-520-7443 (高田広告舎)

e-mail kishida.kuniaki@ivory.plala.or.jp

URL <http://www.baba-law.jp/sekaikan/>

## わたしたちについて

わたしたちは、築百年の「高田世界館」を地域の歴史遺産として保存しながら有効利用することを目標に活動しています。この映画館の再生から、高田の街に元気を取り戻し、地域の活性化に貢献したいと考えます。

## 活動に至った理由や背景

## 残すべき建物に

世界館は明治44年11月1日に劇場『高田座』として開業し、大正5年には常設活動写真館『日活世界館』になりました。ジンタの曲に「コヤ」という呼び方がふさわしかった戦前、「娯楽といえば映画」の時代、いつしか斜陽産業となり、最後は成人映画館になつても、脈々と映写機を回してきました。昨秋に百歳を迎えて、豪雪だった百回目の冬も、周りの不安をよそに坦々と乗り切りました。

現状は外壁のトタン張りや設備類の補修跡が侘しいものですが、開業当時の図面やセピア色の写真からは、アールデコ風な大正浪漫の面影が伝わってきます。スタンダードサイズの白黒映画が素敵に映えるし、ステージはレトロな雰囲気に包まれて味わいが増幅します。

「何とかこのまま残してほしい」、「これを潰しちゃダメ!」、「きっと、まちおこしの種になる」と、それぞれの思惑はありますかが、歴史的建造物はなくなってしまえばオシマイ。如何に精巧な複製でも、ほんものが経た時間を真似ることはできません。雪国高田のまちの盛衰とともに、人々の記憶を刻んでいるから。

## 残すために暗中模索

有志数名で始めた募金運動から発展して、私たちは映画館の行く末を案じる所有者から、3年前に建物を引き継ぎました。不定期ながら名画上映とホールレンタルの収益事業を行い、同時に老朽建物の修繕をやりくりして、維持運営に努めています。2009年にNPO法人となり、H&C財団の一般助成を契機に、上越市の補助事業による椅子張替えと床修繕などを行いました。さらに、16ミリ映画出前上映による収益事業化を目指し、2年間の特別助成プログラムのなかで試行錯誤を続けてきました。昨年は瓦屋根の葺き替え修繕を行い、やっと雨漏りの不安から解放されました。既に近代化産業遺産の認定を受けて、登録文化財になりました。

とはいっても築百年の建物を映画館、興行場として維持するのは、並大抵のことではありません。既に市街地に映画館はなく、郊外のシネコンでさえ苦戦を続けています。特に冬季間は、利用なしでも経費はかかるし、大雪の始末に明け暮れます。除雪は自力では間に合はず、サポーター有志と利用者にも協力をお願いしています。



## 出前上映事業化の見込み違い

高齢者施設への16ミリ出前上映をいくつかの高齢者施設に働きかけて、出前試写会も行いました。しかし、無償ボランティアは歓迎されても有料の契約上映は見込みが立ちませんでした。施設側の理由は

- ①どの施設でも、既に市販のDVDを大型TV画面で鑑賞できる。
- ②利用者の身体状況を考慮すると、1時間が限界。一般的な2時間作品は長すぎる。
- ③視聴覚ライブラリに利用登録しているので、無料で作品と機材を借りて名画鑑賞できる。
- ④出前上映の契約により、施設利用者の娯楽費出費が増えるのは望ましくない。

一方、著作権のある作品を出前で複数回有料上映する場合は、配給契約料金が嵩むことがわかり、出前上映事業化計画は暗礁に乗り上げてしまいました。見込み違いだったといわざるを得ません。

## 名画ワンコイン上映から次のステップへ

世界館の近くで四と九の付く日に「朝市」が立ち、地元の高齢者が徒歩と自転車で買い物に出ます。この人々をターゲットにした低価格の名画鑑賞会を、当NPOの自主事業として2年間継続しました。上越市視聴覚ライブラリの全面協力で館外貸し出しOKのパブリックドメイン作品です。邦画では小津監督作品、洋画では女性に人気の「風とともに去りぬ」や「ローマの休日」は観客数もリピーターも多かったものの、2年目は毎月6回の上映にかかる人件費で赤字になりました。

上映作品もほぼ一巡して、視聴覚ライブラリ 자체が無料の定期上映会を始めたこともあり、今後は月1回のリクエスト上映に切り替える予定です。5月5日に清掃ボランティア作業を行い、その後グレゴリー・ペック主演のアラバマ物語を上映して、ボランティアの皆さんに無料で鑑賞（35名参加）。市内の技術系高校の生徒7名が、フリーペーパー作りをかねて参加しました。世界館に関わる動機付けのイベントとあわせて、清掃＆鑑賞の年間スケジュールを計画します。



2010年12月中旬、EPO「風の散歩道」はFM仙台の公開録画でした。EPOさんと上越市、エフエム上越との縁があり、全国のファンが集まりました。満席になれば、冬の館内も暖まりやすいのです。



上越地域ライブラリが所有する往年の名画を大スクリーンで見たいというお客様に支えられて、2010年から2年間続けた四九映画。既に何度も見たはずなのに、パソコンやTVで見るより面白い。世界館の維持協力金として、ワンコイン500円の上映会は別の形でも続けたい。

## 一般上映会

世界館では上越映画鑑賞会の定例会を毎年5回実施しています。新藤兼人監督の『一枚のハガキ』は地元シネコンで上映しなかつた話題作で、200人を越える動員成績。同監督の初期作『縮図』は、60年前の高田口ヶが話題になり、2回の上映に150人が来場しました。有料配給作品は、これくらい入ると赤字にならぬにすみます。

それ以外にも、自主上映を行う団体に貸し出しています。目立った作品は以下のとおり。

『未来の食卓』は自然食品販売会社の主催で環境と食への関心の高さを証明。

『ミツバチの羽音と地球の回転』は原発を考える市民団体主催で、若い世代の関心を呼んだ。

『エクレールお菓子放浪記』(東日本大震災チャリティー上映会)は他イベントと重なり苦戦。

『ふみ子の海』(主演の鈴木理子さんを招き、舞台挨拶&トークショー)は映写機故障トラブルがありましたが、高田を舞台にした原作と地元口ヶ作品ということで人気。

主催者の動員力と上映期日の調整により、集客数は明暗を分けました。地方都市の場合は、行事の重複効果による集客力より、観客数が分散するほうが問題であるかと思います。

## 特別上映会

文化庁の平成23年度優秀映画鑑賞推進事業により、2011年10月に『名作は時をこえる～高田世界館百年記念映画祭』として4作品を1日3回上映し、合計205名の観客数でした(協力費500円)。

10月20日(木) 小津安二郎監督 1959年

「お早う」 37人

10月21日(金) 新藤兼人監督 1960年

「裸の島」 38人

10月22日(土) 五所平之助監督 1953年

「煙突の見える場所」 49人

10月23日(日) 松山善三監督 1961年

「名もなく貧しく美しく」 81人

この事業は今日では珍しくなってきた35ミリフィルム(無償配給)による上映です。世界館の旧式な映写機を維持していくために、毎年数回は実写で稼動したいという事情もあり継続申請していましたが、2012年は9月29-30日に開催することが決まりました。2011年は広報不足でしたが、出前事業の反省から、老人会や町内会、高齢者施設に働きかけて世界館への来館を勧誘していきます。

## 映画以外のレンタル&主催イベント

ニットファッショの貴公子・廣瀬光治『奇跡のニット』は、大震災直後の3月12日から延期して6月に実施しました。地元手芸材料店やニットスクールのネットワークで満席180名の賑わいでした。

10月初旬の三連休には中心市街地のイベント「花ロード」にあわせて、例年、世界館寄席を主催。落語は世界館再生のきっかけでした。「丁度いい大きさのコヤ」として継続すべく、上越市出身の落語家三遊亭白鳥さんほか、中堅若手の寄席を計画します。

上越市ほかの補助事業により、ステージ拡張と暗幕取替え、スポットライトとプロジェクターを増設して使い勝手が向上しました。それでも、複数音源やハイスペック演出の場合は外部電源が必要ですが、夜間の大音響は近隣にも迷惑をかけます。利用者には十分に説明して理解いただくしかありません。なんといっても明治の建物と戦前の設備なのです。地元劇団上越ガテンボーグのチャリティー公演「ふるさとらぶそでい～塩原町長選挙～」と年末の「蒲田行進曲」では、少ない館内設備に自前の機材を足して、大道具ナシの粹な舞台を見せてくれました。

少人数編成のジャズやバンド公演、FMラジオの公開録音も定着してきました。瓦募金活動中には、出演アーティストの皆様からも瓦サインと募金をいただきました。瓦修理完了後の完熟トリオ公演ではサイン入古瓦を販売し、その収益を寄付していただきました。



こうして新聞に掲載され、TVやインターネットに登場すると、ひとと脚光を浴びます。でも、素顔の世界館は何気なくそこにありながら、しぶとく、百年。

## 見学案内とボランティア体験から

2年続けて10月初旬に、市内の中学生5名のボランティア体験を受け入れました。館内清掃と翌日のイベント看板設置作業、16ミリ映写機体験後は、DVDアニメを鑑賞してもらいました。

館内使用時以外の見学には極力対応しています。小中高校生の教育活動を除き、解説案内付で見学団体を受け入れる場合は、短編映画(日本クラシックアニメ)を上映して、維持協力金をお願いしています。修学旅行を紹介する教育機関紙にも掲載されて、各種団体や視察旅行の皆様に楽しんでいただいている。

こうしている間に『高田世界館』の名は徐々に全国版に広まっています。世界館を応援する漸家やミュージシャンのステージに、県外からのファンも増えています。また、周辺の雁木町家の街並散策と近郊の温泉の組み合わせはJR東日本のツアーアイテムになっています。観光といつても、高田人はすぐにヒートアップしない気質で、「世界館がそんなにウケルなんて?」という思いがあるようです。でも実績を積み上げて、証明していくことで、地域文化の向上という目標につなげたいものです。



雪と高田の間柄。「いずれにしても降る時は降る。一度降ってしまえば根性がすわり、まちは堂々と見えてくる」という言葉は的を射ている。昔の防寒具姿でまち歩きができるのも『雁木』の風景が残されているから。



雨漏りが続く瓦屋根部分を全面的に葺き替えるために、2011年に上越市地域活動支援事業から320万円を助成いただきました。自己資金100万円を1枚2千円の募金で集めるべく、瓦の裏に名前とメッセージを書き込み、不要瓦の再利用をボランティアで行うなど、市民参加型の修繕イベントを実践しました。最終的に186件、83万円の寄付を集めましたが、あと17万円が不足しました。古瓦の再利用もこれからです。

期間中にボランティアによる瓦メッセージ記入を行い、9月には信越映画館交流会として長野と上越の映画ファンが集って、メッセージ記入と『地獄門』を鑑賞しました。長野市と上田市、両市の古い映画館と映画ファンによる信越連携の絆が、今後も強まっていくことを祈ります。



長野の映画＆映画館ファンとの交流が続いています。この日は朝市、懇親ランチ会、四九映画を見ながら、瓦にメッセージを書いていただきました。

古瓦を外した世界館の屋根には、映写機の排熱筒が屹立しています。古瓦の下は、予想通り昔の木端板と土葺きでした。防水下地と新瓦にメッセージ瓦も加えて葺きかえ工事完了。雨漏りは止まりました。



高齢者介護施設で16ミリフィルムの出前上映を行いました。昔の風景や落語など、懐かしい短編作品のお試し上映ですが、一般的なデイルームで室内を暗くするのは意外に難しいです。



世界館内で1階席の後から16ミリ映写機のテストを行いました。「寅さんシリーズ」はシネスコ画面なので、補正レンズをつけています。この映写機専用レンズでないのに、何となくピントが合うアナログな世界館仕様です。

## キネマデリバリー事業の反省

事業の準備で16ミリ映写機の操作実習と点検マニュアル整備を実施しました。映写機販売元の「北辰映像株式会社」に問い合わせて、16ミリシネスコサイズのフィルムに対応するアナモルフィックレンズの使用法を教えていただき、世界館のスクリーンで調整しました。現場で協力してくださったのは視聴覚ライブラリ関係者と映写機を寄贈された横瀬さん。往年の技術者とその時代の映写機とセビア色に変色したフィルム。人間の勘所や手加減次第で、それなりに動くことに不思議な感動を感じました。このアナログでヒューマンな感性は、今日のON/OFFだけのデジタルIT装置とはまったく異質なのです。世界館はそれらを忘れずに、失わずに、引き継いでいくための空間にふさわしいと、改めて実感しました。

交換ランプも購入しましたので、16ミリ映写の希望には対応可能の状況です。現実的にはDVDとブルーレイでしょうが、商業映画以外のソースでは16ミリという選択肢も消えないと考えています。

結局、キネマデリバリー（出前上映）事業は挫折してしまいました。しかし、世界館には35ミリと16ミリ映写機、DVD/ブルーレイ対応プロジェクター2台という映写機械が揃いました。多様なメディアと視聴環境に対応できることで、IT化の時代に希少施設として残していくべきではないでしょうか。

今後は視聴覚ライブラリにも働きかけて、公民館や老人会向けの出前上映を考えています。事業化は困難でも、人件費として交通費程度の謝金なら予算に組みいれてもらえそうです。『世界館なら大スクリーンで見られる』ことをPR、各行事に連携して貸し会場として利用しながら、映画や個人的な映像を楽しむという利用スタイルも考えられます。実際に、町内老人会のカラオケ付敬老会の利用がありました。



## 今後の予定

キネマデリバリー事業の裏で感じたこと  
テレビでも有料配信の世の中、出前上映の事業化はやはり厳しいと思います。一方、旧作、名作をDVDやBS、CS環境で見られない人は少なくありません。たとえ視聴環境があつても、2時間以上の作品を日常生活の中で見る余裕がないのも現実です。四九映画の反応を含めた、お客様の意見です。

- できれば、大スクリーンで見たい（特に字幕ものとモノクロ作品）。
- 郊外のシネコンまで車で行くのは、面倒。
- 自宅のTVやパソコンで見ても集中できない。
- 家事と家人に気がそて、合間のCMもないから眠ってしまう。
- いつでもDVDで見られると思うと、結局、自宅で見るのはないだろう。
- 日時をきめて、誘ってもらえば行く気になる。
- 一人ではなく複数なら、レジャー感覚で食事やイベントと一緒に楽しめる。
- サスペンスやホラー映画を一人で見たくないで複数に声をかけたい。

やはり、映画は映画館で見たいのです。町内会、老人会の行事で世界館での映画鑑賞はいかが？低料金の公共施設と競合しますが、世界館のステージを使うカラオケはいい気分なのです。今年は地域の野球連盟記念行事を世界館で開催し、撮影ビデオを大画面で見るというオファーもあります。

## 映写機の技術・技能の保全

最近、郊外のシネコンが35ミリフィルムからディスク上映に切り替えました。時代の潮流なのです。16ミリも35ミリも映写機そのものが前時代の遺産になり、近い将来にはインターネットによる配信に変わるでしょう。視聴覚ライブよりも古い16ミリフィルムの劣化防止のためにDVD化の作業を進め、セピア色に褪色した昔の映像を鮮やかな色彩で見ることができるようになってきました。  
だからこそ、世界館には旧式の映写機を稼動できるようにしておくべきではないか。あわせて映写技師の後継者を確保すべきではないか。幸いにも、ハイテク技術以前の旧式映写機は仕組がシンプルで故障箇所が特定できるので、交換部品さえあれば修理が可能なのだそうです。同時期の機械部品を流用できるし、修理技術者はまだ健在です。近代化産業遺産の建物と映写機と映写技師、細々とでも映画館とあわせて映画の歴史も残していくと考えています。  
奇しくも、世界館を舞台にした新作映画『シグナル』で、若い主演女優は映写技師役なのです。

2011年10月に行われた文化庁の優秀映画鑑賞会に集まった人々、お客様もスタッフもいます。高峰秀子主演の懐かしい映画『名もなく貧しく美しく』を楽しみにされたお母さんと、一緒に笑顔で終了。



## 地道な運営から人気沸騰へ？

一昨年から打診のあった映画の撮影で、高田世界館と上越市、長野県上田市を中心に、昨年夏に口ヶが行われました。口ヶ候補地探しやエキストラ募集、昼食炊き出しの段取りで、地元とともに協力しました。この映画は『シグナル～月曜日のルカ』。世界館は『銀映館』の役名で出演しました。まさに世界館のプロモーションビデオのような作品に周辺の街並も登場します。2012年6月公開で『シグナル』人気がブレイクしないかと期待しています。まず、劇場で見て、そして世界館にお越しください。  
それでも、酷暑の中の口ヶでした。映画を撮るために機材は軽量化、編集はIT化されました。制作現場そのものは、おそらく小津監督時代とあまり変わらないような人間の体温と息づかいを感じるものでした。

## 隣接する駐車場問題から活動基盤の強化に

世界館の専用駐車場（10台収容）を借りていましたが、赤字のため契約終了を考えました。しかし機材の搬出入には必要です。土地所有者との直接交渉により、理事会で土地購入を決定して、諸々の課題を整理した上で、NPO法人名義の登記を完了しました。

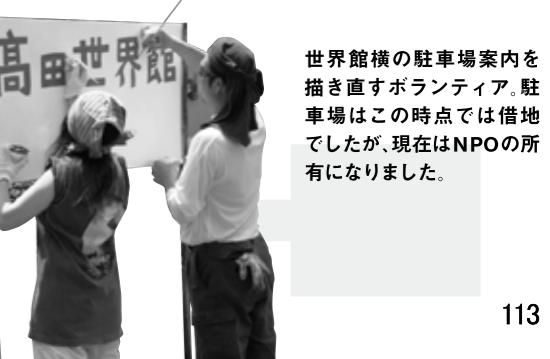
NPO活動の基盤を広げていくために、個人会員と賛助会員を広く募っています。あわせて、「世界館維持修繕会議」の名称で、ハード整備とそのための寄付などを担う組織の立ち上げを進めています。

## 世界館の記憶をさかのぼって

昔の文芸誌の中から、無声映画からトーキーに至る時期の所有者が綴ったエッセイが見つかりました。当時の出来事や映画評のほか、このコヤを取り囲む人々の人情味濃い時代が語られていました。弁士と樂士、看板の絵描き、樂屋裏の暮らしとチケット係の女、流行したビリヤード場。高田の雁木の隙間をぬって、活動写真館にたむろする人々、どことなく気だるい足取りが彷彿とします。まさに映画になりそうな世界です。

代々女たちによって支えられてきた世界館は、無理な設備投資をせずに、時代の波をかわしながら、ひたすら残す道を歩んで百歳を迎えるました。その道程と記憶がぎっしりと詰まっているようです。

昨年、東日本大震災で三陸から福島にかけて、多くの古い映画館が被災しました。改めて世界館がこの地に百年存続してきたことに、思いを廻らしています。



世界館横の駐車場案内を書き直すボランティア。駐車場はこの時点では借地でしたが、現在はNPOの所有になりました。